

小倉城周辺魅力向上事業基本計画 検討会の開催状況について

1	資料1	小倉城周辺魅力向上事業について	・・・1
2	資料2	基本計画検討会について	・・・2
3	資料3	基本計画（テーマ・方向性）について	・・・3
4	資料4	検討会での主な意見	・・・4

小倉城周辺魅力向上事業



小倉城庭園



小倉城



松本清張記念館



文学館



中央図書館



万葉の庭

小倉城は、福岡県内で唯一天守閣を持つ城として、年間約12万人の観光客が訪れる。 入場者の1割以上が外国人観光客。また、小倉城周囲には小倉城庭園や松本清張記念館、中央図書館、文学館、万葉の庭など歴史的・文化的な施設が集積



平成27年度中に基本計画を策定

《小倉城周辺の魅力向上》

- ・歴史的、文化的なイメージを生かした整備
- ・にぎわいづくりイベント など

⇒ 集客力や回遊性のある「観光・文化の名所」へ

歴史的、文化的な資源を活用した 観光・文化の名所づくり



「小倉城周辺魅力向上事業基本計画検討会」について

1 開催目的

「小倉城周辺魅力向上事業」は、小倉城および小倉城周辺エリアを歴史的・文化的なイメージを生かした整備などで、集客力や回遊性のある名所としていくものである。

この事業の基本計画を策定するにあたり、学識経験者等から意見等を聴取することを目的とした、「小倉城周辺魅力向上事業基本計画検討会」を開催する。

2 検討会の構成員

氏名	役職
内田 恵里子	西日本工業大学デザイン学部講師
後藤 みな子	北九州文学協会会長
佐藤 由美子	日本航空株式会社北九州空港所長
篠崎 和敏	日本旅行業協会九州支部北九州地区委員長
津村 卓	北九州芸術劇場顧問
樋上 弥寿子	小倉中央ロータリークラブ元会長
福島 規子	九州国際大学国際関係学部教授
松尾 孝治	北九州青年会議所元理事長

3 開催スケジュール

- ・第1回検討会（平成27年8月31日）
意見交換「小倉城周辺魅力向上事業について」
- ・第2回検討会（平成27年10月29日）
意見交換「小倉城周辺魅力向上事業 基本計画（素案）について」
- ・第3回検討会（平成27年12月予定）
意見交換「小倉城周辺魅力向上事業 基本計画案について」

4 これまでの検討会での主な意見

別紙「資料4」参照

小倉城周辺魅力向上事業 基本計画（テーマ・方向性）（案）

●事業のテーマ

小倉城の周囲には小倉城庭園、松本清張記念館や中央図書館、文学館、万葉の庭など歴史的・文化的な施設が集積している。

本事業は、このエリアの持つ歴史的、文化的なイメージを生かした整備、にぎわいづくりイベントなどを行い、集客力や回遊性のある観光・文化の名所としていくものである。

小倉城周辺魅力向上事業の方向性

●方向性 1 歴史、文学、文化資源を活かした魅力ある拠点づくり

江戸時代から現在まで続く、小倉城、小倉城庭園、史跡などの歴史資源、また、清張記念館、文学館、句碑などの文化的資源の掘り起こし、再生を行い、集客核として施設の魅力の向上を図る。さらに、小倉城周辺地域一帯の資源の魅力を、来訪者へ伝える情報発信の向上を図ることで、人が来たくなる仕掛けづくり、魅力ある拠点づくりを行う。

●方向性 2 来訪者の滞在を生み出す魅力ある非日常の空間づくり

歴史や、文化、文学などの小倉城周辺域ならではの地域資源を活かし、来訪者の知的欲求、好奇心、満足感など多様なニーズに対応した歴史的、文化的な空間を体験できる非日常の場所としての魅力の向上を行い、来訪者の滞留を図る。

●方向性 3 来訪者の回遊向上に向けた仕組みづくり

小倉城や小倉城庭園、清張記念館、中央図書館、文学館等の歴史、文化施設、また、小倉城周辺域に存在する石垣、石碑、文学碑などをストーリーでつなぎ、情報発信の強化や、アクセス性の向上などを行うことで、エリア全体の回遊性を高め、小倉城周辺地域での魅力あるエリアの形成と、にぎわいの向上を図る。

●方向性 4 和のおもてなしによる魅力の発見・伝達

国内外からの来訪者を迎え入れ、小倉の歴史、文化に触れ、味わっていただくために、小倉城周辺の魅力である歴史、文化をテーマとした小倉（北九州）ならではの「和のおもてなし」を実践することで、和の文化の発信、伝統の継承、来訪者が、また来てみたいと思うような動機づくりを行う。

第 1・2 回検討会での主な意見について

＜事業の方向性について＞

1 歴史、文学、文化資源を活かした魅力ある拠点づくり

- ①小倉城とつながりの深い小倉祇園太鼓を体験できる場所があると良い。
- ②宮本武蔵などもっと歴史を掘り起こして、情報発信することが必要。
- ③シビックプライドにつながる財産は沢山ある。小笠原・細川の歴史、文学者などもからめて、子どもの教育にもつなげていっては。
- ④城門について、当時の様子をしっかり調べて、それを準じた形で、お金のかからない部分で復元してはどうか。
- ⑤「日本初、お城に泊まる」ということが出来ないか。一組から二組だけでもいいので、面白さから入っていくのも一つの手ではないか。
- ⑥歴史について付帯する情報もいろいろある。重要な場所であったこともわかる。
- ⑦有名な地元作家の学びの授業や歌詠み会など、子どもの頃から地元の人たちが慣れ親しむようなソフト事業の拡充が必要。 など

2 来訪者の滞在を生み出す魅力ある非日常の空間づくり

- ①日常と非日常が一緒にあるというのが観光の基本。非日常を上手く組み込む工夫が必要。エリアとしては素晴らしい。水と緑もある
- ②角度によって、樹木で遮られ天守閣が見えないときがある。
- ③中央図書館前の雑木林を活かしつつ、松本清張記念館から文学館が見えるようにしたり、おしゃべりや本を読んだり、お茶を飲む東屋があればよい。
- ④日常では、例えば、健康づくりが永遠のテーマかと思う。ランナーのためや、人が集う場所であれば作りやすいかと思う。
- ⑤カフェのような美しい空間、滞留したくなる空間で、市民と観光客の交流の場を
- ⑥現在の長崎の鐘、平和祈念碑の場所をもっと中央に移動させ、式典を市民も参加する式典として、平和教育に役立ててほしい。
- ⑦お土産店は、施設の中ではなく外にあるほうが良い。熊本城のように人の流れが出来る。 など

3 来訪者の回遊向上に向けた仕組みづくり

- ①たくさんの施設があるが、周辺全体に物語性がない。一つ一つが分離している。
- ②歩きやすい道は技術でできるが、歩きたい道は文化でしか作れない。
- ③修学旅行はリピート率が高い。観光バス用の駐車場があると良い。
- ④「行きたい、何か面白そうだな」と思われるような各国の言語でのサインを。
- ⑤敷居を低くしてどれだけの方に来ていただけるか。年間パスを発行するなど、経済的にも無理なく行けるような工夫を。
- ⑥小倉城庭園を小倉城の中の一つの総合案内センターとしての機能を持たせて、ボランティアの受付、また和服を着るとか、体験ができる、小倉の歴史を学べるといようにしては。
- ⑦小倉城を見るのに意外にも一番良いのは、市役所の展望台から。市役所の16階をバーにしてはどうか。 など

4 和のおもてなしによる魅力の発見・伝達

- ①市民が誇りを持てるよう情報を提供することが必要、地元の人たちが知らないとホスピタリティーが生まれてこない。
- ②小倉固有の文化、ぬか床、スイーツ、小倉織など、いろんな体験スペースとしてまたイベントの展開として考えては。
- ③キーワードは「出会い・楽しさ・面白さ・感動・ワクワク感」
- ④旅行社が連れて行くとなると食が必要。食についても小倉ならではのブランド性やテーマ性が無いと連れて行くのは厳しい。
- ⑤小笠原礼法の正しいお辞儀の仕方とか体験させても良い。
- ⑥外国人には、和食などで日本に来たという思いを体験させるべき。
- ⑦和のおもてなしを「北九州のおもてなし」としてはどうか。全てにおいて整合性が取れる。 など

<事業のターゲット・ゾーニングについて>

- ①ターゲットは国内、インバウンド、市民に向けての区分わけを行ってはどうか。
- ②ゾーニングは「歴史」、「文学」に「市民」を加えてはどうか。 など